

News Release

News Release

平成 20 年 7 月 23 日

日本 C C S 調査株式会社

「発電からCO₂貯留に至るトータルシステムの フィジビリティ・スタディー」の実施について

当社は、このたび、独立行政法人新エネルギー・産業技術開発機構（NEDO）の公募する研究開発委託調査事業「革新的ゼロエミッション石炭ガス化発電プロジェクト」のうち、「発電からCO₂貯留に至るトータルシステムのフィジビリティ・スタディー」（以下、「本調査」という）を受託することとなりました。

本調査は、福島県いわき市にある石炭火力発電所から排出されるCO₂を、福島県の沖合にある枯渇した海洋ガス田構造に貯留することにつき、今年度、フィジビリティ・スタディー（事業化事前検討）を実施するものです。

上記の石炭火力発電とは、当社の株主である電力会社10社が出資する株式会社クリーンコールパワー研究所が、常磐共同火力株式会社の勿来（なこそ）発電所構内に設置した石炭ガス化複合発電（IGCC）（※1）です。また海洋ガス田とは、当社の株主である帝国石油株式会社が、1984年から2007年にかけて天然ガス生産を行った岩城沖ガス田構造です。

本調査は、日本国内でのCCS（※2）大規模実証試験に向けた本格的な調査の一つであり、今後、検討・評価を行う上で、関連機関と連携を図りつつ、地域の皆様のご理解とご協力を得ながら進めてまいりたいと考えております。

（※1）IGCC：Integrated coal Gasification Combined Cycle

株式会社クリーンコールパワー研究所が勿来発電所構内にて実証試験中

（※2）CCS：Carbon-dioxide Capture and Storage（二酸化炭素分離回収・貯留）

以上